

各位

高知県病害虫防除所長

平成18年度 病害虫発生予察技術情報第8号（カンキツ黒点病）について

7月下旬に実施したカンキツ園の巡回調査では、県中央部及び中西部において葉や幼果での黒点病の発生が多く（第1表）、特に文旦類での発病が目立っています。8月以降は伝染源となる枯枝が増加する時期にあたり、9月の秋雨により果実が本病に感染する可能性が高まります。

本病が感染した果実に黒点症状や涙斑状の病斑ができると、果実の商品価値を著しく低下させることから、本病にかかりやすい文旦類や発生が多い園では、基本的な防除対策を徹底するようにご指導をお願いします。

防除対策

- 1) 枯枝は伝染源となるので、できるだけ除去し、園外に持ち出してください。
- 2) 本病に対する薬剤の予防効果は、散布後の日数と降雨量に左右されるので、前回の薬剤散布から25日後、あるいは累積降雨量250mmを目安に、定期的な予防散布に努めてください。
- 3) 薬剤防除にあたっては各地域の防除暦を参考に、農薬使用基準を遵守して実施してください。なお、周辺に他の農作物がある場合は、飛散防止の対策を講じたうえ実施してください。

第1表 中晩生カンキツ類における黒点病の地域別程度別発生面積（果実）

単位：ha

年別	地域	発生程度				計
		甚	多	中	少	
本年	東部		18	18	146	182
	中央部	65	32	32	194	324
	中西部		167	83	250	500
	西部				112	112
	合計	65	217	134	703	1,119
平年	東部		7	16	160	183
	中央部	6	26	84	149	265
	中西部			75	250	325
	西部	3	13	34	95	145
	合計	9	46	209	653	918
中晩柑類栽培面積		東部:402ha、中央部:324ha、中西部:523ha、西部:201ha、合計:1,450ha				